

女子大生キャリア展望に影響する規定要因に関する研究

一日中比較を中心に—

レイ オウ クン

深刻な少子高齢化による労働力不足問題の解決策として、日本における女性の活躍を促進することの重要性が増している。女性の活躍を促進するための方策として、「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」、「次世代育成支援対策推進」、「女性活躍推進法」などの法律が制定された。しかし、法的環境が整備された一方で、現実的には日本における女性の雇用は高いレベルにあるとは言えない。女性の雇用率は相対的に低く、非正規雇用が多い。さらに、雇用のM字カーブは依然として存在しているのである。

女性の活躍を促進するには、外部環境の整備だけでなく、女性自身のキャリア意識を高めることも重要であると考えられる。個々人のキャリア意識に重要な影響を与える時期として、労働市場に参入する以前の大学時代があげられるだろう。このため、女性の活躍についての研究を行う際に、女子大生に焦点を当てることは重要だと考えられる。

本論文の第1章で女性の活躍を研究するために、女子大生のキャリア意識を探究する事が重要であることを問題意識として示した。また第2章では、これまでのキャリアに関する理論およびキャリア展望に影響する要因、特に性役割観、自己効力感、キャリア志向性、経済的自立性4つの心理的要因についての先行研究をレビューした。第3章では、大学時代の活動と4つの心理的要因の関連性に関する仮説を構築した。また、4つの心理的要因および母親の影響という外部要因がキャリア展望にどのように関連するのかについても仮説を構築した。第4章では、日本の女子大生を対象としてアンケート調査を行い、得られたデータを元に分析を行った。第5章では、日本の女子大生のキャリア意識の特徴を明らかにするため、中国の女子大生を調査し、日本の女子大生の結果と比較分析を行った。最後に第6章で、研究から得られた知見、本研究の貢献と意義及び本研究の限界と今後の課題を記述した。

本研究の分析から、以下のことが明らかになった。まず、大学時代の各活動の実施の有無と性役割観、自己効力感、キャリア志向性、経済的自立性4つの規定要因の関連性が低かった。一方で、どれだけ授業に努力したかが4つの心理的要因に重要な影響を及ぼすことが明らかになった。また、各活動に対する注力度も4つの心理的要因に重要な影響を及ぼすことが明らかになった。これらのことは、ただ単に活動に参加するだけでなく、積極的に参加することが4つの心理的要因を高めることを示している。

また、キャリア展望には、性役割観と母親の職業の有無が重要な影響を及ぼすことも明らかになった。

中国の女子大生の比較結果では、次のことが明らかになった。中国の女子大生は、学内の各活動への参加の有無が4つの心理的要因に影響を与える一方、各活動に対する注力度は重要な影響を及ぼさなかった。日本の女子学生にとって参加の有無ではなく注力度の方が重要であったこととは好対照である。また、中国の女子大生のキャリア展望に影響する規定要因は性役割観、経済的自立性および母親の職業であることが明らかになった。日本の女子大生の場合も、性役割観と母親の職業は重要な影響を及ぼしていたが、経済的自立性は中国の女子大生に固有の要因である。このような違いが生じた原因について、論文中で考察を行っている。

これまでの女子大生に関する研究はライフコースや職業選択に集中していた。これに対して本論文はライフイベントとキャリアを併せて、ライフキャリアの視点から女子大生のキャリア展望とキャリア意識を考察することができた。加えて、日中比較によって、日本の女子大生の特徴を浮き彫りにすることができた。これが本研究の学術的意義である。また、分析結果を踏まえて日本の女子大生のキャリア意識を向上させるための方策を提言することができた。これが本研究の実務的意義である。